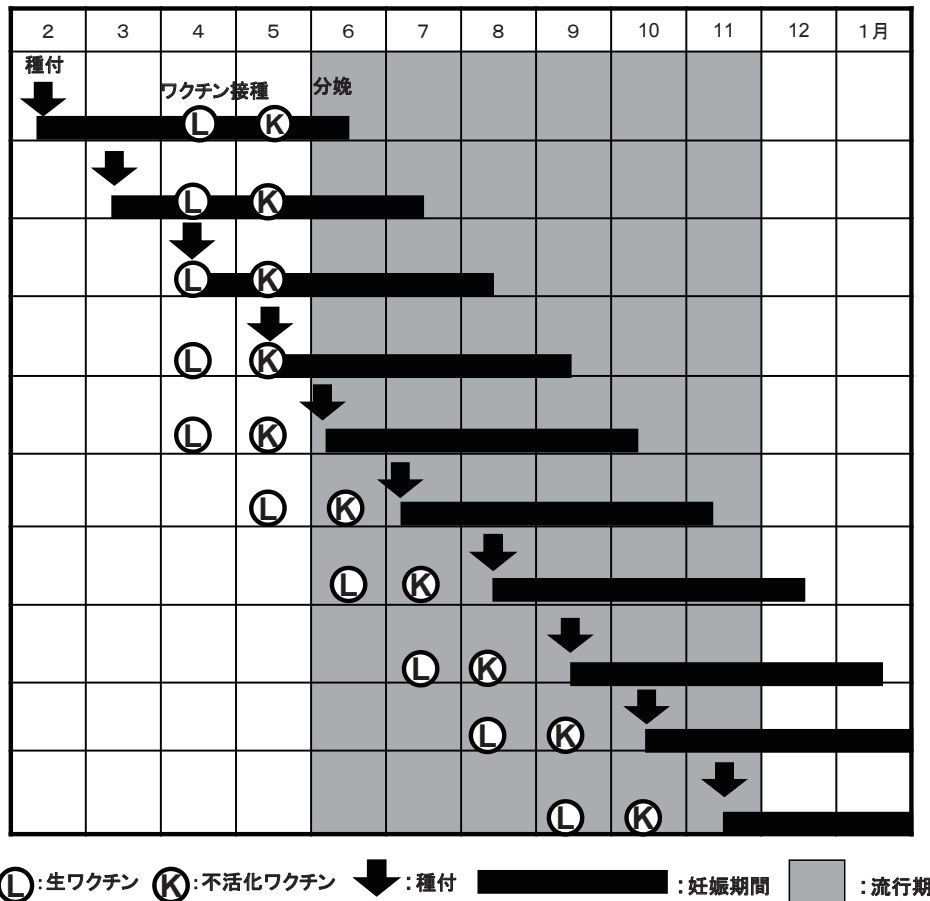


日脳ワクチンの接種時期(未経産豚)

そろそろ寒さも和らぎ、春が待ち遠しくなってきました。季節の移り変わりは早く、特に最近では地球温暖化のためか、春が短くなり、あっという間に夏がやってくるようです。夏の準備の一つに、日本脳炎対策があります。そろそろ、ワクチンについて考えてみる季節です。ご承知の方には釈迦に説法かと思いますが養豚業界で働く方も若返りが進んできたようなので改めておさらいしてみたいと思います。

日本脳炎はウイルスを持っている蚊が妊娠豚を刺して感染し死産、黒子等の被害を与えます。母豚には異常が無いのですが、種雄は精巣炎を起こし無精子症を起こすことがあります。蚊が活動を始める前に妊娠豚、雄豚にワクチンを接種し、確実に感染防御抗体(抵抗力)を与えましょう。

日生研は従来から日本脳炎の予防にL-K法をお勧めしてきました。L(生ワクチン)法とは病原性を弱めた生きたウイルスを注射する方法です。このワクチンは抗体を持っていない豚に注射すると1回の注射でほぼ確実に発症を防ぐことが出来ます。又、4ヶ月未満の候補豚であればL-L法も可能ですが、豚がある程度以上の抗体価を持っている場合には注射した生ワクチンのウイルスが中和されてワクチンの効果が出ない時があります。K(不活化ワクチン)法は不活化(殺す)したウイルスを注射するワクチンです。豚の抗体価が高い場合でも確実に抗体価を上げることが出来ます。しかし、抗体を持っていない豚には、まず生ワクチンで抗体価を上げてから不活化ワクチンを接種する必要があります。野外感染では抗体価が高くなることが多いので、前の年に感染した豚は抗体を持っていて生ワクチンでは中和されて、抗体が上がリません。そこで不活化ワクチンの出番です。不活化ワクチンはすでに抗体を持っている豚の抗体価を更に上げてくれます。1頭1頭抗体価を調べて、抗体のある豚には不活化ワクチンを、無い豚には生ワクチンを1回接種すればよいのですが、注射をするよりも手間とお金がかかります。そこで考えたのが抗体価の低い豚に確実に免疫を与えるために1回目に生ワクチンを接種する方法です。抗体価の高い豚の免疫は上げませんが、抗体価の低い豚の抗体を上げることが出来ます。1回目の生ワクチンで抗体の上がらなかった豚も上がった豚も、2回目の不活化ワクチンの接種で更に抗体価を上げることが出来ます。これで確実に感染を防ぐ抗体を与えることが出来ます。



日脳ワクチンの接種時期(未経産豚)

